

# 語気副詞“都”について

郭 春 貴

(受付 1997年10月20日)

0.

中国語の副詞“都”は普通3種類に分けられる。

①範囲副詞：複数や総括を表す。例えば、“他们都是日本人。”（彼らは皆日本人である。）の“都”は「みんな」「全部」という意味を表す副詞である。

②時間副詞：ある時間や状況になったことを表す。例えば、“都七点了。”（もう7時になった。）の“都”は「もう」「すでに」という意味を表す副詞である。

③語気副詞：ある状況や程度について、話し手の不満や不審などの感情を強く表す。例えば、“那件事，你都不知道啊！”（あのこと、君は知らないの？）の“都”は相手に不満、軽蔑の語気を表す副詞である。

本論文は③語気副詞の“都”（以下“都”で略称する）の用法や文法機能などについて分析する。①範囲副詞と②時間副詞の“都”は本論文の論ずる範囲としない。

本論文は以下の問題点について論証したい。

- (1) “都”の用例
- (2) “都”の省略
- (3) “都”の使用条件
- (4) “都”と語気副詞“也”の異同
- (5) “都”と範囲副詞“都”や時間副詞“都”との重用
- (6) “都”が表す語気

1.

まず、一般の辞書や文法書における“都”についての説明を紹介する。

《現代汉语词典》は第3項目として“甚至”（甚だしい）を表すと説明している<sup>1)</sup>。《現代汉语八百詞》は明確に語気副詞とは言わず、第2項目として、“甚至”と説明し、4種類の用法と例文を挙げている<sup>2)</sup>。

《現代汉语虚詞例釋》は明確に語気副詞とは言わないが、「語気の強調を表す」として、“甚至”の意味がある、と説明している<sup>3)</sup>。

《实用現代汉语语法》はその他の用法（一）で、介詞“连”、副詞“甚至”、数詞“一”と連用して、状況を強調すると説明している<sup>4)</sup>。

ところが実際には、“都”は以上のように代表的な辞書や文法書に説明されているよりはるかに複雑であり、日本人学習者も理解しにくいのではないかと思われる。単に「甚だしい」というだけでは、以下の例文は説明できなくなる。

1. 可你呢？哼！我都没法儿张嘴。（苏24）

（しかし君は？フン！俺も言えない。）

2. 幸福挂在你鼻子尖儿上，你都不敢伸伸舌头。（苏62）

（幸福が君の目の前にあったって、君は舐める勇気なんか無い。）

3. 你一表人才又聪明又能干，我巴结都来不及哩。（烦100）

（あなたは立派で、賢くて、能力もあり、僕なんか取り入ろうと思ってもできない。）

この3つの例文の“都”は確かに一種の語気の強調であるが、「甚だしい」とは言えない。一体、この“都”はどのようなものなのか、用法や使用条件を上述の文法書に述べたものを踏まえて、それ以外の語気副

---

1) 《現代汉语词典》p.304 中国社会科学院语言研究所編、商务印书馆1996。

2) 《現代汉语八百詞》p.153-154

3) 《現代汉语虚詞例釋》p.317

4) 《实用現代汉语语法》p.137-138

詞“都”も含めて論じる。

1. 1

“都”が一番よく使われる文型は、介詞“连”と一緒に使って、物事の程度の「甚だしい」状況を表すものである。例えば、

4. 我们连最细微的地方都考虑到了。(编7)

(我々は最も細かい所さえも考えた。)

5. 我这病怎么连饭都不能吃了?(王①70)

(僕のこの病気はどうして飯も食えないのか?)

6. 你连事实都不承认?(王①382)

(君は事実さえも認めないの?)

例4は「我々が用意周到なこと」を強調するために、“连....都....”の文型で「最も細かい所さえも考えた」と言って強調する。例5は「病気のひどさ」を強調するために、“连....都....”の文型で「ご飯さえも食べられない」と言って強調する。例6は「相手が何も認めないこと」を強調するために、“连....都....”の文型で「事実さえも認めない」と言って強調する。

この“连....都....”という文型は確かによく使われるが、場合によって介詞“连”を省略して、“都”だけでも強調することができる。例えば上の例4、5、6は“连”を省略して、“都”だけで語気を強調しても意味は変わらない。“连”を省略したその他の例も見てみたい。

7. 我惭愧得头都不敢抬起来。(冬23)

(私は恥ずかしくて頭さえも上げられない。)

8. 脸皮都不要了, 还穿什么新裤。(冬82)

(面子さえもいらなのに、新しいズボンをはくなんて。)

9. 下一步又是什么, 她自己都无法预料。(烦163)

(次はどうなるのか、彼女自身さえも予測できない。)

1. 2

“都”は「....も....しない」という否定の強調もある。この文型は2種類に分けられる。

1. 2. 1

動作や状態の否定を強調するために、最低限の数量を用いてその否定形の前に“都”を使う。その文型は、“一+量詞+(名詞)+都+否定詞+動詞/形容詞”である。例えば、

10. 没关系，一点儿都没关系。(王①27)

(構わない、少しも構わない。)

11. 我一句话都说不出来。(王①442)

(私は一言も言えない。)

12. 而你....一封信都没有。(王①42)

(しかし君....手紙は一通もなかった。)

13. 一颗炸弹开花了，一群人中顶多有两三个还有气，有时一个都不剩。

(烦344)

(爆弾が一つ爆発したら、群衆は多くても2、3人しか生きられない、時には一人も残らない。)

以上の例文の“都”は総括を表すのではなく、“一点儿”“一句话”“一封信”“一个人”という最も少ない数量を出して、その後ろの動詞や形容詞の否定の語気を強調する役割を果たすのである。従って動詞や形容詞の肯定形では、この文型はなく<sup>5)</sup>、例10、11、12、13を肯定形にして、“一点儿都有关系”“一句话都说出来”“一封信都有”“有时一个都剩”と言うことはできない。

また、このような文型には、前後文の関係で場合によって“一+量詞”

---

5) “连+一+量詞+都+肯定詞”という考え方もあるが、その時の「一」は具体的な数字であるから、肯定形があり得る。しかしこの「一」は一番少ないものを代表するものであり、他の数と入れ換えることができないので、否定形しか使えない。郭《1997》参照。

の前に“连”を置くこともでき、“连....都....”の文型と同じになる。

例10は“连”をつけられないが、例11、12、13はつけることができ、“我连一句话都说不出来。”（私は一言さえも言えない。）“连一封信都没有。”（手紙は一通さえもなかった。）“有时连一个人都不剩。”（時には、一人も残らない。）とも言える。他の例：

14. 没有一个编辑部像我们这儿，连个编务都没有。（编2）

（どこの編集部だって、我々のように一人の編集員さえもないような所はない。）

15. 施正男就连一句搪塞的话都想不出来。（张57）

（施正男さんをごまかす言葉さえも思いつかない。）

16. 瞧你，傻不楞登的，连个媳妇都“照”不住。（苏86）

（ほら！バカ、嫁さんさえも見つからない。）

17. 你怎么连句好话都没有呢？（苏171）

（君はどうしてよい言葉が一つもないの？）

ただし“连一+量詞....都....”の文型になると、形容詞と一緒に使えず、“都”の後には必ず動詞の否定形を置く。例えば、“今天一点儿都不热。”（今日は少しも暑くない。）“他一点儿都不忙。”（彼は少しも忙しくない。）とは言えるが、“今天连一点儿都不热。”“他连一点儿都不忙。”とは言えない。それはもともと“连....都....”という文型がある状態や程度についてさらに極端な例を用いて強調して説明するものなので、また形容詞で説明することはできないからである。

ここに述べた“一+量詞....都”の文型は場合によって“连”をつけることができるが、ニュアンスは1. 1と多少異なる。この差異については別の機会に論じたい。

## 1. 2. 2

ある動作の否定形「....もしない」「....もしなかった」「....もできない」「....もできなかった」などを強調するために、その動作の肯定

と否定形の間“都”が使われる。

この表現の文型は、“動詞+都+否定詞+動詞”になる。例えば、

18. 我连头也没回，理都不理他。(张29)

(私はふりかえりもせず、ちっとも彼を相手にしなかった。)

19. 我看都没看，怎么写意见？(编90)

(俺は全然読んでないのに、どうやってコメントを書くの?)

20. 我在地上就哭起来，站都站不起来了。(冬74)

(私はその場に座り込んで泣き出し、ちっとも立ち上がらなかった。)

21. 他想都没想就点了头。(烦328)

(彼は全然考えもせず、うなづいた。)

この時の“都”は語気を強め、決して省略することはできない。例えば、例18、19、20、21は“都”を取ってしまうと、文として成立しなくなる。

一方、この文型には“连”をつけることができる。この時“连”は初めの動詞の前につける。例18“我连头也没回，连理都不理他。例19“我连看都没看。”例20“连站都站不起来。”，例21“他连想都没想就点了头。”に変えても文として成立し、意味も変わらない。逆に“连....都....”の文でも“都”を残して“连”を省略しても意味は変わらない。例えば、

22. 连想都不敢想。(编25) (考えようもしない。)

23. 我最反对介绍什么对象。何况你们连问都没问过我，怎么知道我必定喜欢她？(冬211)

(僕が最も反対するのは恋人を紹介することだ。ましてやあなた達はぼくに全然聴かずに、どうして僕が絶対に彼女が好きとわかるの?)

24. 吴欢并不理她，甚至连看都没看她一眼。(张65)

(吴欢さんは彼女を相手にするどころか、ちらと見ようもしなかった。)

25. 我挂了这么重的彩，腰都快打断了，我连哼都没哼一声。(白98)

郭：語気副詞“都”について

(俺はこんなに重い怪我をして腰も折れそうなのに一声も出さなかった。)

以上の例文は全て“都”を残し、“连”を省略しても、意味が変わらない。言い換えれば、“都”は省略できないが、“连”は省略できる。つまり、“都”という語気副詞の果たす役割は“连”という介詞より重要なのである。それは、中国語の文法において、連詞よりも副詞の役割のほうが重要であることを物語る。普通語気詞は省略できるが、ここでは省略できないことは、中国語の副詞の重要性を表していると思われる。

1. 3

ある状況を大げさに誇張する語気を表すためにも、“都”がよく使われる。日本語で「ほとんど」「もう少しで」となる。例えば、

26. 那人蛮得很，肠肚子都打得流出来，硬不肯投降。(烦334)

(あの人はなかなかしぶとい、腸が出るほどひどく殴られても、降参しない。)

27. 我想了几个晚上，想得都抽了。(烦340)

(幾晩も考えて、神経もおかしくなった。)

28. 七天七夜的雨，天都下黑了。(烦352)

(一週間朝から晩まで雨が降り続き、空も黒くなった。)

29. 天青....羞惭得心都要从嘴里跳出来了。(烦233)

(天青さんは恥ずかしくて、心臓も口から跳び出しそうなほどだった。)

以上の例文のようなオーバーな表現は動詞の前によく“都”を用いてその気持ちや状況を強調する。その他よく見られる表現は：

30. 天都塌下来了。(空も落ちてきた。)

31. 我的脸都给丢了。(面子もなくされた。)

32. 笑得我肚皮都胀破了。(お腹も破裂するほど笑った。)

33. 气得我鼻子都歪了。(鼻も歪むほど怒った。)

1. 4

ある物事について、相手に不満や軽蔑の感情を表すためにも、“都”がよく使われる。例えば、

34. 唉!“茶钱先付!”说着都烫嘴。(龙138)

(ああ!「お茶代先払い!」と言ったら口をやけどするよ。)

35. 把“一”字都念成扁担,你念什么书啊!(龙144)

(「一」という字を天秤棒と読むなんて、お前は何を勉強したのか。)

36. 刘震云啊!这你都不认识。(编112)

(刘震云さんよ、君はこれも知らないの。)

37. 外面累了一天了,回来他都不知道心疼人。(王①334)

(一日中外で疲れたのに、家に帰っても、彼は全然心配してくれない。)

2. “都”の省略

普通の語気詞は省略が可能である。例えば、“你来呀!”(君、来いよ。)は話者の話し方によって、語気詞の“呀”が省略でき、“你来!”でも十分本来のニュアンスを表すことができる。

また、同じく語気副詞も省略できることがある。例えば、“那就是我家。”(あそこがわが家だ。)の語気副詞“就”は話者の話し方によって省略でき、“那是我家。”と言っても、意味が通じる。

では、一体“都”は省略できるだろうか。この“都”は省略できる場合と省略できない場合がある。

2. 1

まず、省略できない場合について考えたい。

1. 1で“连....都....”の場合は“都”を省略できないと述べた。

1. 2の“都”も省略できない。“一+量詞+(名詞)+都+否定詞+動詞/形容詞”という文型が「....も....しない」と「....もしない」



という否定を強調するので“都”が省略できない。例10、11、12の“都”を省略し、“一点儿没关系。”“我一句话说不出来。”“一封信没有。”とすると、文として成立しない。

「動詞+都+否定詞+動詞」という文型も“都”が動作の否定を強調するため、省略すると、文として全く成立しない。例18、19、20、21の“都”を省略し、“我连头也没回，理不理他。”“我看没看，怎么写意见。”“我在地上就哭起来，站站不起来”“他想没想就点了头。”とすると、文として成立しない。

1. 3の「ほとんど」を表す“都”はその極端な状況が事実であれば、“都”を省略できるが、そうではなければ省略できない。例えば、例26、28、29、30、32は事実ではないので、“都”を省略できない。

## 2. 2

次に“都”を省略できる場合を論じたい。

以上に述べた4つの“都”の用法の中で、介詞“连”が付けられず極端な事実を表す1. 3と不満や軽蔑を表す1. 4の“都”は省略できる。両方とも“都”だけを用いて、強い感情を表しているが、その強い感情を話者の話し方で補うことができるので、“都”を省略しても文として成り立つ。また、意味もあまり変わらない。例27、31、33、34、35、36、37の“都”は全部省略できる。例えば、例27、35の“都”を省略し、“我想了几多个晚上，想得心抽了。”“把‘一’字念成扁担，你念什么书啊！”としても、文として成り立つし、話し方によっても元の意味と変わらない。ただし“都”を省略すると、書面上では語気が失われる。

## 3. “都”の使用条件

以上に語気副詞“都”が省略できる条件とできない条件を分析したが、次にその“都”を使える条件と使えない条件を分析したい。

語気はかなり言語環境に左右されると思われる。上述した5つの“都”

の用法から考えて、“都”を使える条件と使えない条件は次のようになる。

3. 1

まず、使えない条件から考えたい。

(1)客観的に事実を述べたり描写する時には“都”を使えない。例えば、

38. 西北风呼呼的像雷鸣，刮得人睁不开眼。(人26)

(西北の風がびゅうびゅう吹いていて、目を開けることができない。)

39. 星期六的傍晚，学院区的大街上很热闹。(人63)

(土曜日の夕方、学院区の大通りはとてものにぎやかだ。)

40. 叶薇瞪大眼睛，显得无比惊讶。(烦158)

(叶薇さんは目を大きく見開いて、ひどく驚いた。)

(2)自分の感想や考えを述べる時にも、“都”を使えない。例えば、

41. 我很后悔，但又不必后悔。(白327)

(私はとても後悔している。しかしまた後悔する必要もないと思う。)

42. 这太不公平，太残酷了。(人147)

(これはあまりにも不公平で、残酷だ。)

43. 她这一出去，就不会回来了，我知道她这个人。(烦158)

(彼女はこうして一度出て行ったら、帰って来ることはない。私は彼女の人となりを知っているよ。)

(3)相手に感謝したり謝罪する時にも、“都”を使えない。例えば、

44. 谢谢诸位对我家乡的关心！(老①372)

(皆様が私の古里に対する心配りに感謝します。)

45. 我对不起你，我不配有你这样的女儿。(人62)

(あなたに申し訳ない。僕はあなたのような娘を持つ資格がない。)

46. 原谅我把你的宽容当成了鼓励。(白313)

(あなたの寛大さを励みとして受けることを許して下さい。)

3. 2

“都”を使わなければならない条件は次の2つである。

(1)ある事実や状態に対して、不満の感情があれば、“都”を使わなければならない。例えば、例38は客観的にある事実を述べているが、もしその事実に関わる動作に不満の気持ちがあれば、その事実“都”を使わなければならない。“西北风都呼呼的像雷鸣，刮得人睁不开眼，你还让她出去。”(西北の風がびゅうびゅう吹いていて目を開けることもできないのに、あなたは彼女を行かせるなんて。)状態の場合も同じである。例えば、“今天不热。”(今日は暑くない。)は客観的な状態だが、それに関わる動作に不満がある場合は、“都”を使わなければならない。“今天都不热，你干吗还开空调。”(今日は暑くないのに、なぜまだ冷房をつけるの?)

(2)ある状況や程度をさらに説明するために、予想外であったり極端であったりする状況を用いて強調する時にも“都”を使わなければならない。例えば、例39“学院区很热闹。”という状況について、予想外のことを用いて強く説明するならば、“都”を使わなければならない。“学院区很热闹，连平常很少出门的老教授都出来看热闹了。”(学院区はとてにぎやかで、普段あまり外出しない年のいった教授たちさえも見物に来た。)例42“这太不公平，太残酷了。”は状況に対する感想だが、それをさらに極端な例を用いて説明するのなら、“都”を使わなければならない。“这太不公平，太残酷了，连一个这么好的孩子都得跟着受罪。”(それはあまりにも不公平だ、残酷だ。あんなよい子さえもつらい目に会わなければならないなんて。)

すなわち、ある事実に対して、批判ではなく不満な感情もなければ、“都”を使えない。例えば、“对不起，我不会说英语。”(すみませんが、

私は英語が話せません。) は不満の気持ちがないので、“都”を使えない。“对不起，我都不会说英语。”とは言えない。もし謝るのではなく、不満の気持ちがあれば、“都”を使える。例えば、“我都不会说英语，你干吗让我说？”(私は英語なんか話せないのに、なぜ私に言わせるの?)

“他的态度很不好。”(彼の態度は悪い。)"你怎么迟到了?"(君はなぜ遅刻したか。)のように、評価や疑問の文でも“都”を使えない。

また、ある状況やレベルについて、さらにその予想外の極端さを強調するためには“都”を使わなければならない。例えば、“今天忙得要命，连吃饭的时间都没有。”(今日はものすごく忙しく、食事の時間さえもなかった。)“吃饭的时间都没有”は“忙得要命”の状況を強調するためである。そうでなければ、“都”を使えない。例えば、“他忙得要命。”(彼はものすごく忙しい。)と“他没有时间吃饭。”(彼は食事の時間がない。)というように別の文になると、“都”を使えない。

もし、“他忙得要命。”、“他没有时间吃饭。”という事実について、不満な気持ちが含まれれば、“都”を使えるようになる。例えば、“他都忙得要命，你还给他那么多工作。”(彼はもう死ぬほど忙しいのに、君はまた彼にたくさんの仕事を与えた。)“他都没有时间吃饭，你还叫他做这个。”(彼はご飯を食べる時間もないのに、君はまた彼にこれを頼んだ。)

#### 4. “都”と“也”

“都”と語気副詞“也”が多くの場合において、互いに取り替えることができ、意味もほとんど変わらないことについては、すでに指摘されている<sup>6)</sup>。本論文では、上述した4つの“都”と“也”の異同について論じる。

1. 1の“连...都...”の“都”と“也”の異同は郭(1997)でも分析したように、“都”は不満や予想外や複数の状況を強調する時に使

---

6) 高橋《1991》参照。

われるのに対して、“也”は主に「同類」を強調し、不満の気持ちを含まない。

1. 2の“都”は前にも述べたように“连”と一緒に使えるので、その“都”も1. 1の“都”と同じく“也”と置き換えることができる。例10～21の“都”は全部“也”に置き換えることが出来る。その異同も1. 1と同じである。

1. 3の「ほとんど極端な状況になる」というニュアンスは“也”と換えることができない。例えば、例28“七天七夜的雨，天都下黑了。”を“七天七夜的雨，天也下黑了。”とすると、他のものも黒くなったという意味になるので、文としては成立するが、論理的にはあり得ない文になる。例26も同じく、“肠肚子都打得流出来，硬不肯投降。”を“肠肚子也打得流出来，硬不肯投降。”に換えると、「他のものも殴られたことによって出る」ということになる。例29“羞惭得心都要从嘴里跳出来了。”を“羞惭得心也要从嘴里跳出来了。”に換えると、「他のものも口から出てくる」というニュアンスになるので、文として不自然になる。つまり、“都”は「ほとんど極端な状況になりそうである」という語気を表せるが、“也”は表せない。

1. 4の不満や軽蔑の感情を表す“都”は“也”に換えることができるが、不満の気持ちは軽くなる。例35“把‘一’字都念成扁担，你念什么书啊！”は“把‘一’字也念成扁担，你念什么书啊！”に換えると、「他の字も天秤棒と読む」となり、しかも不満の気持ちも少なくなる。例36“这你都不认识。”を“这你也不认识。”に換えると、「他のことも知らない」となり、軽蔑のニュアンスがあまりない。

つまり、基本的に、“都”は総括、不満、極端な状況になりそうなことを強調する語気であるが、“也”は予想外のことは他と同類であることを強調する語気である。

## 5. 重用

中国語の副詞は、一個一個の性質がはっきりしており、区別できるものもあれば（例えば、“已经”“正在”“全部”など）、複数の性質、役割が混ざっているものもある（例えば、“就”“可”“也”など）。“都”も後者に入る。

本論文で論じる語気副詞“都”も実際には、時に範囲副詞や時間副詞の役割が重なることがある。例えば、

47. 他们连走路节奏，说话节奏，劳动节奏都变轻快了。（白11）  
（彼らは歩く時のリズム、話す時のリズム、働く時のリズムが全部軽くなった。）

48. 这点儿要求他都不答应，那他还算个人吗？（王①394）  
（これくらいの要求を全然承諾してくれなくて、彼は人間といえるか。）

49. 我的心都让你点着了。（苏38）  
（私の心はもう君の愛の火で燃やされた。）

50. 一本儿《谈谈辩证法》，一本儿《三侠五义》。这本儿都快翻烂了。（苏11）  
（一冊は「弁証法について」、一冊は「三侠五盗」。これらの本はもうほとんどぼろぼろになりそうだ！）

例47の“都”は確かに“连…都…”の“都”であるが、その前に“走路节奏，说话节奏，劳动节奏”という複数の目的語があり、“都”はそれらを総括する範囲副詞の役割も含んでいる。例48“这点儿要求”は「最低限の要求と」も「複数の要求」とも考えられるので、強調と総括双方の意味が含まれている。例49“我的心都让你点着了。”は「私の心はほとんどあなたに燃やされた。」とも「私の心はもうあなたに燃やされた。」とも解釈できる。この“都”は語気副詞と時間副詞の役割を果たしている。例50“这本儿都快翻烂了。”は前後の関係から見る

と、“这本儿”は「一冊」ではなく「2冊」という複数なので、“都”は総括のニュアンスがあり、また「ほとんどほろほろになりそう」という極端な状態になるという強調の語気も表し、総括と強調の語気を含んでいる。

このように、“都”という副詞は場合によって、いくつかの役割を含んでいる可能性もある。

## 6. “都”の表す語気

以上の4つの使い方から見ると、この“都”が主に表す語気は2つに大別することができる。

### 6. 1 不満

1. 4で挙げられた例文は全て不満のニュアンスを表している。その他、1. 1の“连....都....”の“都”の語気は郭(1997)でもすでに分析したように、全て不満の語気ではないが、大部分の“连....都....”の“都”は不満の気持ちを表し“连....也....”の“也”より、不満の気持ちが強い。以下は小説と脚本から抽出した“连....都....”の不満と不満ではない例文の回数である。

作品名	连....都	不満	不満ではない
龙	13	8	5
张	5	3	2
苏	16	16	0
人	16	9	7
冬	15	7	8
合 計	65	43 (66%)	22 (34%)

(作品名は「例文出典及び略称」を参照)

上の表から見ると、“连....都....”がほとんど不満を表していることがはっきりする。また、その“连....都....”の文型は“连”を省略

できるが、“都”は省略できない。つまり、その不満の感情を表すのが“都”の役割ということになる。例えば、

51. 连吃什么长大的都不知道啦。(苏6)

(何を食べて大きくなったのかさえ知らないんだね。)

52. 你总是弄得人人都不愉快，连小孩子都不放过。(张228)

(君はいつも人に嫌なことをする。子どもも許さない。)

53. 当了十几年兵，连半个媳妇都娶不上！他妈的！（龙124）

(10年兵隊をして、嫁ひとりももらえない、畜生！)

それから、1. 2で述べた“都”も不満のニュアンスを表すことがある。例えば、

54. 你这个人一点儿控制能力都没有。(王①337)

(君はちょっとコントロールする力もない。)

55. 每天伺候你，一句好话都得不到。(王①347)

(毎日あなたの面倒を見ても、よい話を一言も得られない。)

56. 你都一点儿好听的都没有。(王①30)

(君は少しもいい話がない。)

## 6. 2 極端な状況を強調する

“都”のもう一つの語気は極端な状態や程度を強調することである。

1. 3で述べたように、普段ではあり得ない状況や程度をオーバーに表現する時、“都”がその役割を果たす。

勿論1. 1の“连…都…”の文でもそのような語気を表すことができる。もともと“连…都…”という文型は程度を強調するために使われるものであるので、その程度が話者にとって予想外だったり極端な場合に、“连…都…”を用いて表現する。例えば、

57. 她病得奄奄一息，连说话的力气都没有，好半天认出我。(冬44)

(彼女は病気で青息吐息で、話をする力もなく、長い時間かかってやっと私とわかった。)



58. 庞总管，你也听说过庞总管吧？伺候着太后，红的不得了，连家里打醋的瓶子都是玛瑙作的。（龙94）

（庞总管、あなたも庞总管のことを聞いたことがあるでしょう。皇太后にお仕えして、とつても羽振りがよくなって、家のお酢の瓶もめのうで作ったものなのよ。）

59. 曾惠心的脸只剩下黑发中青白的一块，连嘴唇都白得没有一点血色。（人153）

（曾惠心の顔は黒い髪の下に青白く、唇も白くて血の気が全くない。）

以上の例文には不満の感情がない。この時の“都”は予想外だったり極端な状況や程度を強調する。

また、1. 2で挙げた例11～17の“都”は全て極端な否定を強調する語気を表している。

### 6. 3 不満と極端

“都”が表す語気が単純な不満、或いは極端の強調ではなく、時には、両方の語気を共に表すこともある。1. 3で挙げた極端を強調する例27、28、31、33はみな不満の気持ちも含んでいる。また1. 4で挙げた例34、35は極端な表現でもある。次の例文も両方の語気を含んでいる。

60. 他呢！今儿连我们结婚的纪念品都卖啦。（苏23）

（彼はね、いま、私たちの結婚記念品さえも売ってしまったよ！）

61. 你别扇风点火，我这儿都急死了。（苏212）

（君は火をつけないで、俺はもう焦って焦ってしょうがない。）

62. 实际上，他已经麻木到用开水烫都不知道疼的程度了。（肃299）

（実際、彼はもうお湯でやけどしても痛くないほど麻痺しているよ。）

63. 你看这大字报，医院都快闹翻了天。（苏235）

（君、この大字報を見てご覧！病院はもうほとんどひっくり返されたよ。）

## 7. 小結

“都”はもともとは「全てを総括する」範囲副詞である。その「全て」の総括から、「何でも、誰でも」の総括に発展し、さらに、普段では考えられない極端な状況や程度を強調する意味を派生した。“都”の意味から考えると、「全部」という概念は「全て、最大範囲」ということであり、容易に「最も」という極端な状況にまで拡大していったのではないか。例えば、“我的心都跳出来了。”(私の心臓はほとんど飛び出してきた。)の“我的心”は確かに一つしかないのに、“都”は総括を表すのではないが、「心臓一つが全体」という発想になると、総括を表すことになる。“一个都没有。”の“一个”も複数ではないが、その“一个”は具体的な「一個」ではなく、あくまでも「全ての最小限の代表」である。その理由は、“一个都没有”とは言えるが、“两个都没有”“三个都没有”とは言えないからである。

また、この「全て、最大範囲」の意味から、極端な状況や程度の強調、さらに語氣的な不満や軽蔑の意味を派生した。例えば、“这你都不懂?”(君はこれもわからないの?)は“这你不懂?”より不満の気持ちが多く含まれている。その“都”はやはり「最小限の代表」である“这”を強調する。つまり、「こんな最も簡単なこと」も君はわからないというニュアンスである。

従って、この語気副詞“都”の使用条件は「複数」か「最小か最大限の代表」の物事を強調する時、あるいは不満を表す時に使われる。逆に言えばその条件を満たさない場合は語気副詞“都”を使えない。

**参考资料：**

1. 吕叔湘 1980《现代汉语八百词》北京商务印书馆
2. 北京大学中文系 1955、1957级语言班 1982《现代汉语虚词例释》北京商务印书馆
3. 刘月华、潘文娱 1983《实用现代汉语语法》外语教学与研究出版社
4. 姜汇川、许皓光等 1989《现代汉语副词分类实用词典》对外贸易教育出版社
5. 马真 1982〈说‘也’〉《中国语文》第4期中国社会科学出版社p.283-288
6. 杉村博文 1988〈现代汉语“疑问代词+也/都……”格式的句法语意分析〉『大阪外国语大学学报』第76-1.2号p.103-110
7. 崔希亮 1990〈试论关联形式“连……也/都……”的多重语言信息〉《世界汉语教学》第3期p.139-144
8. 崔永华 1984〈“连……也/都……”句式试析〉《语言教学与研究》第4期p.30-44
9. 中川千枝子 1985〈漢語副詞“都”の文脈分析及び語気分析〉京都産業大学論集14卷第3号外国語と外国文学系列12号p.136-153
10. 苏培成 1984〈有关副词“都”的两个问题〉《语言学丛刊第十三辑》北京大学中国语言文学系p.35-40
11. 高桥弥守彦 1991〈关于表示强调的“也/都”〉《云梦学刊》4期p.76-83
12. 郭春贵 1997〈“连……都”と“连……也”の同異について〉《広島修大論集》37卷第2号（人文編）p.145-172

**例文出典及び略称**

- ①（苏）：《苏叔阳剧本选》北京出版社 1983
- ②（龙）：老舍《龙须沟、茶馆》人民文学出版社 1984
- ③（张）：《张洁小说剧本选》北京出版社 1980
- ④（人）：榭容《人到老年》上海文艺出版社 1991
- ⑤（冬）：遇罗锦《冬天的故事》人民文学出版社 1985
- ⑥（编）：王朔《编辑部的故事》三联出版社 1992
- ⑦（王①）：王朔《王朔文集1纯情卷》华艺出版社 1992
- ⑧（王④）：王朔《王朔文集4谐谑卷》华艺出版社 1992
- ⑨（白）：白桦《白桦的中篇小说》中国文联出版公司 1985
- ⑩（肃）：《肃反小说选1949-1979》群众出版社 1979
- ⑪（全①）：老舍《老舍剧作全集》①中国戏剧出版社 1986
- ⑫（烦）：李双、张忆主编《烦恼人生》中国文学出版社 1993

## 试论语气副词“都”

郭 春 贵

本论文主要讨论语气副词“都”的使用条件以及它所表达的感情色彩。范围副词与时间副词“都”不在本论文讨论范围内。

在对外汉语教学上，许多日本学生都不能很好地掌握如何使用语气副词“都”。本文主要先介绍这个“都”的使用情况，然后分析其省略的情况及使用与不能使用的条件，最后附带讨论它与语气副词“也”的异同，以及与范围副词“都”、时间副词“都”的重叠使用的情况。

据笔者的调查所见，语气副词“都”的使用情况有四种：

①强调某种状态或程度，使用“连……都……”句型：“他忙得连饭都没吃。”

②强调否定动作或状态，使用“一……都……”和“动词+都+否定词+动词”句型：“他一句话都不说就走了。”“他问也不问就拿走了。”

③表示几乎达到某种极端情况的语气：“气得我鼻子都歪了。”

④表示不满或蔑视的语气：“这个你都不知道。”

以上四种使用“都”的情况，②的两种句型都能加上“连”，变成①。这两种能跟“连”一块儿使用的“都”不能省略。③所表达的几乎达到的极端情况如果是事实的话，“都”则可以省略，如果只是一种夸张并不是事实，则不能省略。④则完全可以用说话人的语气来取代“都”，所以可以省略。不过书面上如果少了“都”则不能突出不满的感情。分析以上四种使用情况，可得出不能使用“都”的条件为：

1. 记述或描述客观事实时不能使用“都”。“今天不热。”
2. 阐述自己的感想或意见时不能用“都”。“我很后悔，但又不必后悔。”

3. 表示感谢或歉意时也不能使用“都”。“谢谢你对我们的关心。”

而能使用语气副词“都”的条件基本上有二：

1. 对某事实表示不满时，一般使用“都”：“今天都不热，你还开空

调。”

2. 使用某极端情况对某状态进一步强调说明时，一般也使用“都”：“他忙得要命，连吃饭的时间都没有。”

至于语气副词“都”和“也”笔者在郭（1997）已经论及“都”主要表示总括和不满，而“也”主要表示类同，不满语气不如“都”强。其他情况的“都”和“也”的异同也大致相同，不过③和④的“都”如果换成“也”，句子的“几乎”和“不满”的语气就消失，只表示类同。例如：③的“气得我鼻子都歪了。”换成“气得我鼻子也歪了。”就表示其他部分也气歪了。⑤的“这个你都不知道。”换成“这个你也不知道。”就表示其他事情你也不知道。

不过，现代汉语里的语气副词“都”有时不仅只表示语气，它有时还同时表示时间，或同时表示范围。例如：“他都来了，你还不高兴。”的“都”表示不满语气，也表示“已经”，所以同时是语气副词也是时间副词。又如：“这些问题你都不明白，你还算是个大学生。”的“都”不仅表示不满也概括了“这些问题”，所以同时是语气副词也是范围副词。

也许我们可以做一个设想：“都”原本是个范围副词，表示总括。后引伸为表示概括任指，例如：“谁都知道。”“什么时候都可以。”后来在从表示总括全部、整个、最大部分的意义引伸为“整个事实都已经实现”的时间副词，例如：“他都来了，我们还等什么？”同时也引伸为强调预想之外或极端情况的语气副词，例如：“连校长都参加这次的清洁运动。”最后又从表示极端的情况发展为表示不满的语气，例如：“这个你都不明白。”而这种表示不满的含意却形成语气副词“都”的主要特色。不过，这只是个设想，还有待调查副词“都”的历史发展来证明。